



水稻編



病害虫注意報
2017年11月作成

※農薬の使用はラベルの記載に従ってください。

刈り取り後の除草

刈り取り跡に雑草が生えている田んぼは、今しっかり防除を行うことで次作が楽になります！

次作までに時間のある場合

クロレートS

- ・一年生雑草、多年生イネ科雑草
- ・稲ワラの上からでも効きくが、水が溜まっているところでは効果半減
- ・次作植付けまで3か月程度離すこと

次作までに時間の無い場合

ラウンドアップ マックスロード

- ・一年生雑草、多年生雑草
- ・ヒエ、セリ、クログワイ、オモダカ、カヤツリグサなどの防除困難な雑草に
- ・土に残らず分解が早い



特徴

使用方法

おすすめ

オモダカ：30～40kg(6～8袋)/10a
 多年生イネ科雑草、一年生雑草：20～25kg(4～5袋)/10a 全面土壌散布
 水稻刈取後(秋期雑草生育期)/回数制限なし

薬剤500～1,000ml/10a
 雑草生育期(水田刈跡)/1回
 (希釈量：10a当たり通常50～100L、少量25～50L)

- ・オモダカ等の防除には、刈取り後すぐの散布が効果的！
- ・土壌に残っていると次作の水稲まで枯れてしまうため、散布は必ず年内に行うこと！
- ・降雨時または降雨が予想される時は、効果の減弱や河川等への流出を避けるために散布は行わないこと。

- ・雑草が緑化(青々と)している時期に散布しましょう。(刈取り直後[薬剤500～1000ml]、もしくは3～4月の水田耕起前[薬剤200～500ml]がおすすめ)

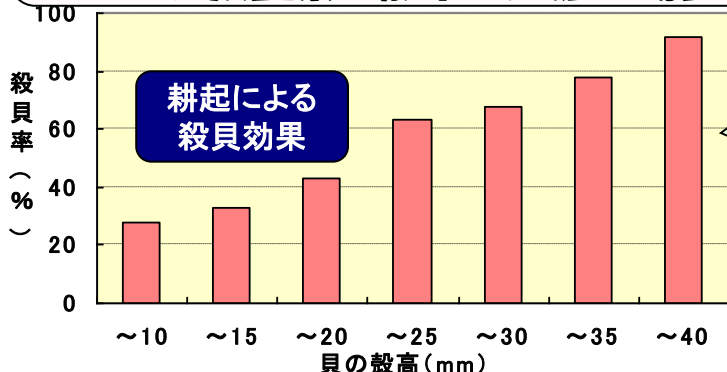
刈取後のジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)防除

- ①湛水状態3～4cmを1～4日続ける(水温15℃以上)。
- ②ジャンボタニシが活動を始めたら、石灰窒素20～30kg/10aを散布する。
- ③3～4日湛水状態で放置してから自然落水する。

※石灰窒素は河川などに流出、飛散しないよう注意して下さい。



石灰窒素の散布が困難な場合は、耕起だけでも効果あり



1月上旬～2月上旬に耕起すると、貝が潰れることでの物理的な殺貝効果だけでなく、残った貝も寒気に曝されることで死滅します。冬場の耕起は1回だけでなく複数回おこなうと殺貝効果さらにアップします↑↑

石灰窒素を使用する際の注意事項

- ・魚毒性があるので、降雨前の散布、圃場外への漏水等に十分注意する。
- ・窒素分が土壌に残るので、作付け前には土壌分析を行い、施肥管理に十分気をつける。
- ・隣接作物がある場合は、ドリフト(飛散)しないように気をつける。

